

# リウマチ・膠原病だより

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター  
日本リウマチ学会認定教育施設

医療法人社団 ヤマナ会

東広島記念病院 広報誌

Vol.13 No.1

発行日 2020年 6月 1日

創刊日 2008年 4月 21日



## 理念

1. 私共は医道を尊び、規律を守り社会的責務にこたえます。
2. 私共は常に研鑽し信頼される病院を創ります。
3. 私共は安全な医療を提供出来る病院をめざします。

## 患者憲章

1. 尊厳を保つ医療を受ける権利を有します。
2. 納得出来る説明と情報を受ける権利を有します。
3. 十分な情報提供下で治療方針を選択する権利を有します。
4. 医療機関を自由に選択出来る権利を有します。



### 仙石庭園 (STONE PARK YAMANA)

この庭園は山名会長が趣味人生の集大成として 21 年の歳月をかけて企画、設計、施工しました。7,000 坪の回遊形式の庭園は、その後も質量共に内容を充実させ現在では日本最大級の石庭となっています。是非一度ご来園下さい。(カーナビ目的地設定: 東広島市高屋町高屋堀 1398)  
追記: 新型コロナの渦中、北側 3,000 坪を開発造成し、2021 年春完成を目指して突貫工事中です。完成の暁には 10,000 坪の貴族の庭、武家の庭となります。ご高覧下さい。

## Contents

### ■特集

2019 年関節リウマチ患者様の定点調査報告  
東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター

院長 岩橋 充啓

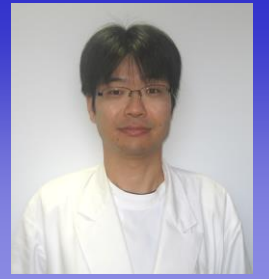
### ■ヤマナ会グループ施設紹介

たかやの郷

# 特集

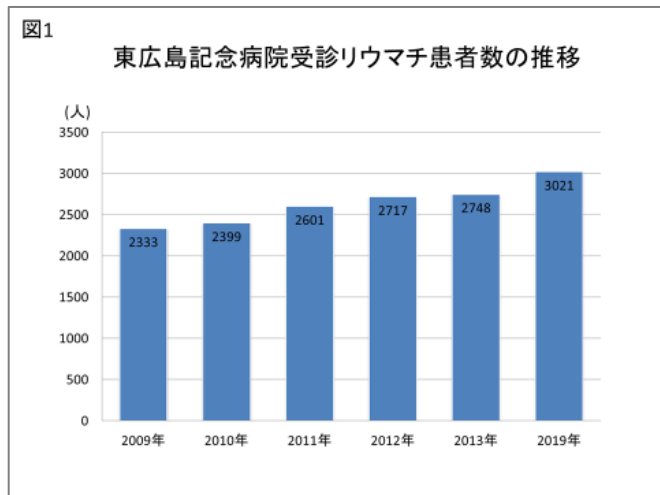
## 2019 年関節リウマチ患者様の定点調査報告

東広島記念病院  
リウマチ・膠原病センター  
院長 岩橋 充啓

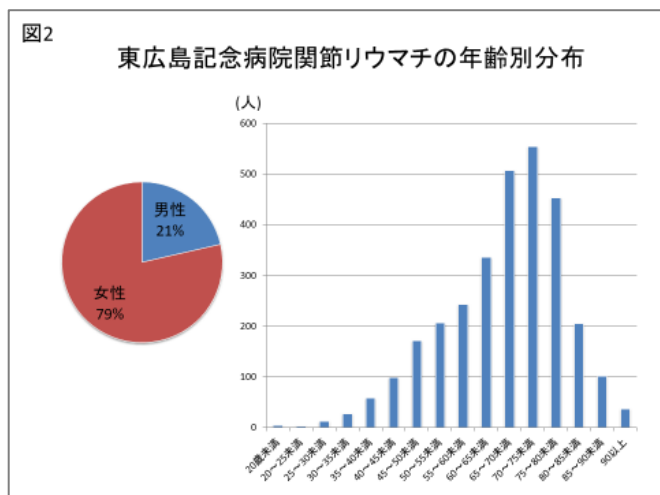


2019 年春に東広島記念病院、リウマチ内科銀山町クリニック、広島生活習慣病・がん健診センター大野 リウマチ科に通院いただいている関節リウマチ患者様全員に疾患活動性、投与薬剤、身体機能の調査にご協力いただきました。遅くなりましたが調査結果をご報告いたします。

現在通院中のリウマチ患者様は 3021 例、図 1 の通り受診患者数は年々増加しています。薬物療法の進歩に伴い専門医志向が高まったことともありますが、当施設のリウマチ診療が患者様にご支持いただけているものと嬉しく思います。



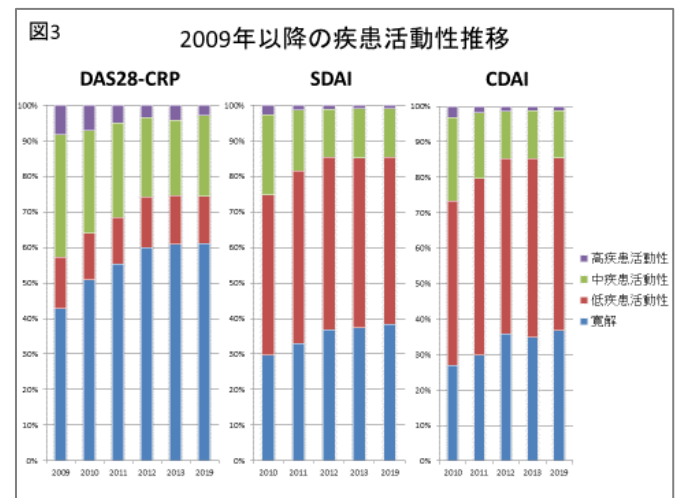
1994 年の開院以来継続通院いただいている患者様も少なくなく、平均年齢が調査の度に高くなります。最も多い年齢層が 70 歳から 75 歳であり、65 歳以上の高齢者が 61.5%、75 歳以上が 26.4%です (図 2)。



このようなリウマチ患者様の高齢化は当院に限ったこと

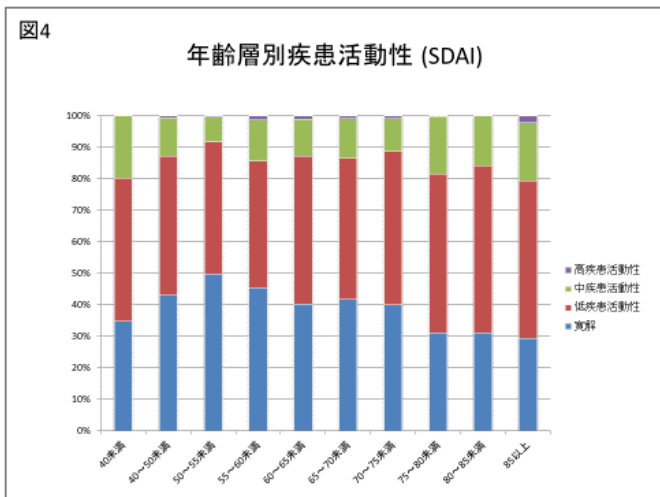
ではなく、全国共通の問題点であり、「高齢者の関節リウマチ治療」は大きな課題と言えます。

2009 年以降の疾患活動性を図 3 に示します。2009 年から 2013 年までは寛解・低疾患活動性の治療目標を達成できている割合が上昇傾向でしたが 2013 年と 2019 年では変化がありませんでした。

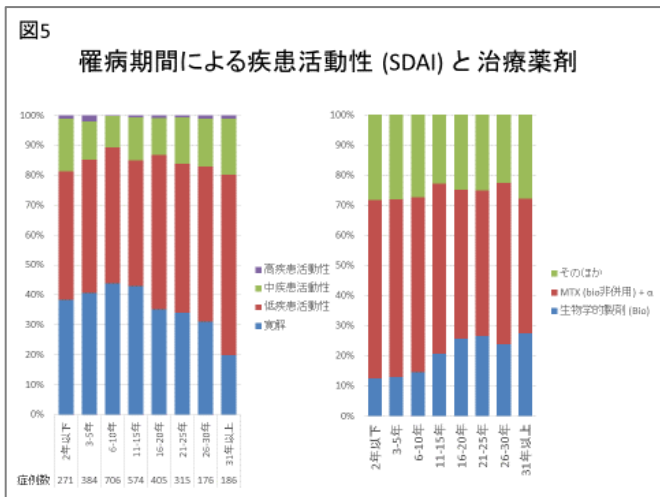


その原因はどこにあるのでしょうか？年齢別に疾患活動性を図 4 に示します。75 歳以上の症例が治療目標を達成できていない割合が高くなります。その一方、40 歳未満の症例も寛解・低疾患活動性の目標を達成できていない症例が 20%もいることが大きな問題点です。40 歳未満の症例では、妊娠希望のため基幹薬であるメトトレキサート (MTX) を投与していないことや、医療費の観点から生物学的製剤や JAK 阻害薬など高額な薬剤を避けることが原因と考えます。30 歳のリウマチ患者様の場合「今くらいの疼痛であれば我慢できる」という考えではなく、「50 年先も元気に過ごすための積極的な治療」を考える必要があります。我々医師は「今の関節炎が持続すれば 10 年後、20 年後...50 年後どのような状況になるのか」を考え、過不足なく治療することが重要と考えています。「過不足」と書いたのは「不足」は治療が不十分で骨破壊が進行することであり、「過」は必要以上に高額な薬剤を投与し、家計や医療経済を圧迫することです。薬剤が豊富になったため、寛解を達成すれば薬剤の減量も考えられる時代です。まず、しっかりと深い寛解に到達することが重要です。

副作用頻度があまり増加しないため、高齢者に選択するケースが多くなっています。



寛解に到達するまでに時間を要しては少しずつ骨破壊が進行します。図 5 に罹病期間別の疾患活動性と投与薬剤を示しましたが、当院のデータでは 10 年を過ぎて生物学的製剤の使用率が上昇し、それに伴い寛解達成率も高くなります。最も骨破壊の進行が速いのは発症 2 年以内であるため、この時期を window of opportunity と呼び、積極的治療が必要です。最終的には生物学的製剤使用率は 25% に上昇しますが、罹病 5 年以下の症例に限れば 12~13% であることが問題点です。積極的治療が必要な症例には遅れることなく次のステップを考慮すべきです。早期に深い寛解に到達し、その後の生活が「リウマチであることを忘れるように」送れることが究極の目標です。



2013 年と 2019 年の年齢別リウマチ治療薬を図 6 に示します。2013 年には 85 歳を超えて MTX や生物学的製剤を投与している患者様は 23.9% でしたが 2019 年には 46.0% にまで増加しています。特に MTX を投与している割合より生物学的製剤投与例が顕著に増加しています。高齢になれば肝障害や腎障害により薬物代謝が低下し、低分子化合物である MTX では副作用のリスクが高まります。その一方、生物学的製剤は蛋白製剤であるが故、薬物代謝について心配する必要がありません。特にアバタセプトは加齢によ

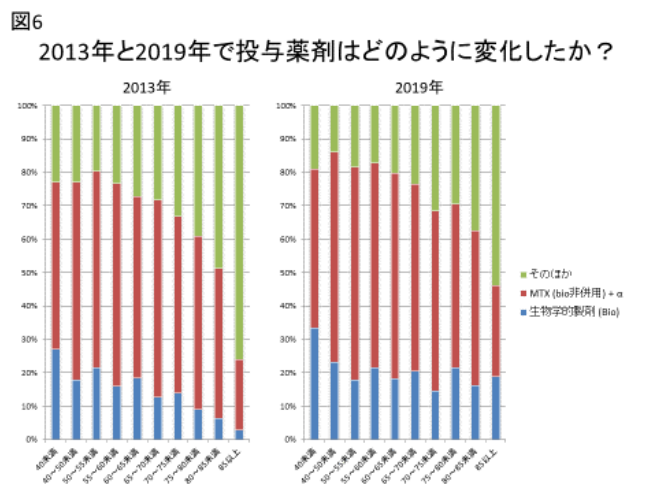
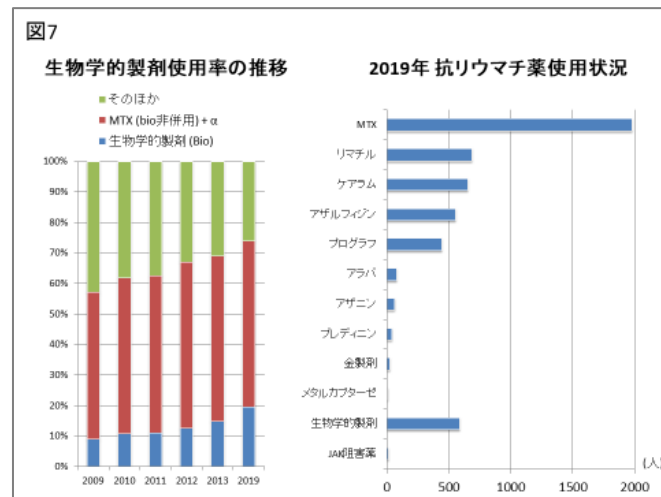


図 7 に示すように生物学的製剤の使用頻度は年々増加し、2019 年には 20% 近くにまで上昇しています。では内服の抗リウマチ薬はどうでしょう？ 20 世紀からある古い薬剤だからと馬鹿にしてはいけません。生物学的製剤、特に TNF 阻害薬を生かすのは内服の抗リウマチ薬です。生物学的製剤、新規薬剤では JAK 阻害薬に目が行きがちですが、基幹薬はやはり MTX です。MTX、タクロリムス、ブシラミン、サラゾスルファピリジン、イグラチモドなどの使用頻度は決して低下していません。これら内服の抗リウマチ薬を上手く組み合わせ治療目標の達成を目指します。また寛解に到達した後、すべての薬剤を中止することは現実的な目標ではなく、内服の抗リウマチ薬を継続しながら寛解を維持し続ける微調整が重要です。



2019 年の定点調査結果を報告いたしました。2013 年と比較し高齢者の関節リウマチ治療は生物学的製剤や少量の MTX を投与することにより上手くコントロールできるようになっています。しかし発症早期からの積極的治療はまだ十分とは言えません。関節リウマチに罹患してすぐに生物学的製剤や JAK 阻害薬のような高額な薬剤を受け入れる

ことは難しいと思います。そのような患者様に私たちも「生物学的製剤がイヤなら、内服の抗リウマチ薬の組み合わせでなんとか安く治療してみましょ」と他の治療手段を提示します。しかし10年後、20年後・・・50年後を考えれば発症2年以内に寛解を目指すことはとても大切です。

現在の関節リウマチ治療は選択肢となる薬剤が多くなり、生物学的製剤で寛解導入し、その後の休薬・減薬に関するエビデンスも豊富になりました。「合併症がない症例は、まずはMTXを投与し寛解を目指す。達成できない場合は生

物学的製剤（またはJAK阻害薬）を併用、深い寛解を達成すれば休薬や減薬し、より安全かつ安価な薬剤へ切り替える」こう考えることにより疾患活動性をしっかりとコントロールできるはずです。発症早期の治療以外にも高齢化社会に適した治療・肺病変合併例の治療・骨粗鬆症対策・フレイルの予防など課題はたくさんあります。関節リウマチ周辺疾患にも目を配り、患者様がご満足いただける治療を目指し、スタッフ一同さらに研鑽を積んでまいります。

## □ ヤマナ会グループ施設紹介

### たかやの郷

2019年3月より、古家真会より引き継ぐ形で当グループに加わりました。高齢化で生活に支障が出てきた方にリーズナブルな価格で生活の場を提供出来ればと考えています。

#### ■業務内容

- ・デイサービスセンターたかやの郷
- ・ヘルパーステーションたかやの郷
- ・サービス付き高齢者向け住宅たかやの郷
- ・居宅介護支援事業所たかやの郷



デイサービスセンター



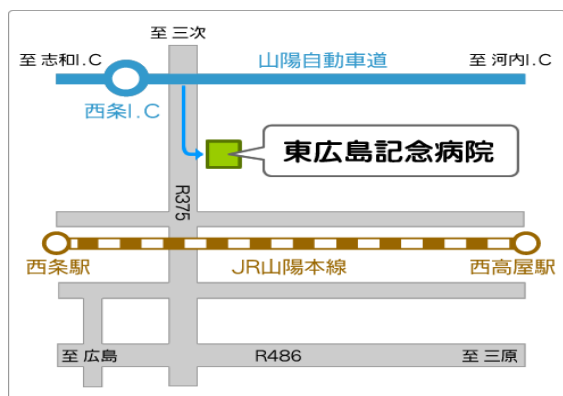
サービス付き高齢者向け住宅



**082-491-0017** (受付時間/9:00~18:00 平日のみ)

〒739-2102 広島県東広島市高屋町杵原 1826-1

### 周辺地図



### ヤマナ会 関連施設

#### 東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214  
TEL 082-423-6661

#### リウマチ・内科 銀山町クリニック

〒730-0016 広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル 5F  
TEL 082-228-6661

#### 広島生活習慣病・がん健診センター 東広島

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214  
TEL 082-423-6662

#### 広島生活習慣病・がん健診センター 幟町

〒730-0016 広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル 4F・5F  
TEL 082-224-6661

#### 広島生活習慣病・がん健診センター 大野

〒739-0422 廿日市市大野早時 3406-5  
TEL 0829-56-5505

#### 東広島整形外科クリニック

〒739-0024 東広島市西条町御園宇 4281-1 東広島クリニックビル 1F  
TEL 082-431-3500

#### さくら MRI クリニック

〒730-0016 広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル B1F  
TEL 082-224-6610

#### たかやの郷

〒739-2102 東広島市高屋町杵原 1826-1  
TEL 082-491-0017

#### 発行 広報委員会

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214 医療法人社団 ヤマナ会 東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター  
TEL 082-423-6661 FAX 082-423-7710 E-mail izika@hnh.or.jp http://www.hnh.or.jp/